

われらの
農業委員・推進委員

陸前高田市農業委員

新沼 信秋さん

陸前高田市農業委員会
(戸羽正光会長、農業委員10人、農地利用最適化推進委員11人)で現在2期目の新沼信秋委員(77)

身ながら初めてのリング栽培。夫婦とも勤めを持つていたため、地域の人たちの協力を得ながら作業していた。

「写真」は、農業委員として農業者からのさまざまな相談に応じつつ、推進委員と協力して農地パトロールを実施する。また、市や社会福祉協議会の事業で農作業体験の指導にあたっている。

退職後に専業農家となった翌年、2011年3月に東日本大震災の大津波が発生。自宅が全壊し、農地も被災した。避
難所で生活しながら、ボ
ランティアの支援を受け
て自宅や農地のがれきを

新沼委員は鹿児島県出身。40歳のとき、妻の孝子さんの実家に家族4人で転居し、孝子さんの母が一人で守ってきたリンゴ畑を継いだ。農家の出

撤去。その後、行政による農地復旧工事を経て、同年12月、およそ200

娘夫婦も合流、地域に恩返し



花盛りのリンゴ畑で作業する新沼委員

主に関西や九州に直接販売している。

新沼委員を農業委員に推薦した元委員の菅野正博さんが「世話好きで何事にも前向き」と語るように、民泊で受け入れた市外の中高生や市社協の「みんなの畑プロジェクト」参加者に農作業を指導する。市社協の松本崇史主任は「どんな年代の人にも丁寧で優しい」と話す。

昨年4月、長女夫婦が子ども3人と京都から近所に引越してきた。休日農作業を手伝う娘家族に、38年前の自身の姿を重ねる。「この地域に育てられた。地域に恩返しするため、娘たちにリンゴづくりを継いでほしい」と穏やかに語る。

（陸前高田市農委会・菅野光二情報員）